



南部町立南部中学校 学校だより 第22号

# チーム南部中

令和3年 2月18日(木)

校長 望月和彦

## 『ビブリオバトル in 南部中』

今年度も図書委員会が中心になり、ビブリオバトルを開催しました。ビブリオバトルとは、誰でもできる本の紹介コミュニケーションゲームです。ルールは簡単、「①発表参加者が読んで面白いと思った本を持ってくる。②順番に一人3分間(公式な大会では5分)で本を紹介する。③それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを行う。④全ての発表が終了した後に“どの本が一番読みたくなったか?”を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。」というものです。



昨年度は全校生徒が蒙軒ホールに集まった開催でしたが、今年度は感染症対策として密を避けるため、学年ごとの開催となりました。1月22日の1校時が1年生、3校時が3年生。28日の6校時に2年生が行いました。発表者であるバトラーは、1年生が、樋口あいさん、佐野大輔さん、村松士輝さん、大内龍雅さん。3年生は、倉橋誠一朗さん、佐野寧音さん、五十嵐智春さん、秋山颯さん、佐野聖斗さん。2年生は草場瑠偉さん、前田鈴音さん、入月瑛大さんでした。大勢の前で発表するというのはとても勇気がいることですが、バトラーの生徒たちはそれぞれ個性を発揮し、ユーモアも交えながらとても素敵な発表をしてくれました。本を読んだことによって勇気や希望を与えてもらったこと。自分が知らなかった世界を本の中で疑似体験できたこと。方言の奥深さに気付いたこと。読書を通して自分の将来の夢が広がったこと。主人公の考え方や生き方から、これからの人生の教訓を学べたこと。読書によって自分を変えようと思えたこと。などなど。生徒の発表に続けて、佐野佳那実教諭、千野彩佳教諭、内田勝久教頭が、教職員の代表としてお気に入りの本の紹介をしてくれました。私も含め、発表を聞いていた生徒の中には、「自分も紹介された本を読んでみたい」と思えた人が多くいたことでしょう。それぞれのバトラーが紹介してくれた本は、「図書館だより」No.13に詳しく掲載されていますのでご覧ください。このビブリオバトルを一つのきっかけとして、多くの生徒が、読書の魅力に気づき、知識や見方・考え方を広め、心を豊かにしてくれることを期待しています。



自分が知らなかった世界を本の中で疑似体験できたこと。方言の奥深さに気付いたこと。読書を通して自分の将来の夢が広がったこと。主人公の考え方や生き方から、これからの人生の教訓を学べたこと。読書によって自分を変えようと思えたこと。などなど。生徒の発表に続けて、佐野佳那実教諭、千野彩佳教諭、内田勝久教頭が、教職員の代表としてお気に入りの本の紹介をしてくれました。私も含め、発表を聞いていた生徒の中には、「自分も紹介された本を読んでみたい」と思えた人が多くいたことでしょう。それぞれのバトラーが紹介してくれた本は、「図書館だより」No.13に詳しく掲載されていますのでご覧ください。このビブリオバトルを一つのきっかけとして、多くの生徒が、読書の魅力に気づき、知識や見方・考え方を広め、心を豊かにしてくれることを期待しています。

## 3送会に向けた取り組み

2月も半ばを過ぎ、3年生が登校する日は残り15日ほどになりました。新生徒会にとって、最初の大きな行事である「3年生を送る会」(3送会)が、来週の2月22日に開催されます。この日のために、新生徒会事務局の生徒は冬休み中から話し合いを持ち、3送会の目的やコロナ禍の中で実施できる内容、組織と取り組み計画を考えてきました。1月21日の第1回実行委員会で決定したテーマは「おくる」。「これまで3年生が学校全体や下級生のためにしてくれたことに対する感謝の気持ちと、これから新しい進路に向かう3年生への激励やエールの気持ちを「おくる」という意味が込められています。1・2年の代表者が、総務部(3送会全体の総括)、記念品部門、スライド



部門、招待状・装飾部門、応援部門の5つに分かれて、記念品や招待状、スライド、応援等の企画を行い、2月から1・2年生全員で昼休みや放課後等を利用して、記念品や招待状、装飾品の作成や応援練習に取り組んできました。例年通りの1・2年生による合唱や呼びかけは、感染症対策のためできませんが、「3年生に対する様々な思いを1・2年生がどのように表現するのか」「1・2年生の気持ちに3年生がどのように応えるか」当日がとても楽しみです。



3月11日の卒業式は参加者の健康と安全を第一に考え、昨年度と同様に、在校生は参加しないこととしました。この「3年生を送る会」が、1・2年生と3年生との間で行われる卒業式になります。お互いの心に残る会になることを期待しています。



## 令和3年度の新しい仲間がやってきました

2月3日の午後、「新入生一日入学」を行いました。現時点で令和3年度の新入生は、睦合小から19名、栄小から7名、富沢小から14名の合計40名です。6年生40名と引率してくれた小学校の担任の先生方、そして6年生の保護者の皆様に蒙軒ホールに集ってもらいました。私と佐野遥斗生徒会長から歓迎の言葉を伝えた後、内田勝久教頭、雨宮文生徒指導主事、山之内進SB主任から、小学校と中学校との違い、中学校の学習や日常生活のきまりについて、登下校やスクールバスについてなどを順番に説明しました。教員の説明が終わると、生徒会本部役員の生徒



たちが、スライドを使って生徒会活動や学校行事、制服の着方などについて、スライドや見本を示しながら説明しました。お兄さんやお姉さんのように説明してくれたので、最初は緊張気味だった6年生たちも、次第に笑顔が見られるようになり、中学校生活への期待と希望を抱いてくれたようです。後半は、6年生の児童を3グループに分け、生徒会役員が先導して校舎の案内するとともに、部活動の様子も見てもらいました。説明と案内を担当した生徒会本部役員や部活動を見て

もらった1・2年生にとっては、先輩としての自覚や新入生の手本になる意識を高める機会にもなりました。3月に60名の3年生が卒業し、4月には40名の新入生が入学するので、全校生徒数は135名になります。生徒数は減少しても、これまで築き上げてきた「南中文化」を大切に、さらに高めていってほしいと思います。

## 日本の伝統文化を学ぶ

1月26日と27日、1年生は音楽の授業で「箏曲」の学習をしました。ゲストティーチャーは、昨年度も来ていただいた楳根にお住まいの若林卓子先生です。本校には、統合前に3中学校で使っていた箏があり、二人で一面を使える環境があります。音楽室の床にたくさん



さんの箏を並べ、A・Bのクラスごと2日間で4時間、若林先生から丁寧に指導していただきました。触ったこともない生徒が多かったと思いますが、音色を楽しみながら生徒たちは意欲的に学習していました。4時間目になると楽譜を見ながら、全員で「さくら」を合奏できるまでになりました。若林先生からは「説明をしっかりと聞いて、とても一生懸命やってくれました。驚くほど上達が速かったです。素晴らしい生徒さんですね。」とお褒めの言葉をいただきました。日本の文化や伝統芸能に触れる機会を通して、生徒たちには豊かな感性を育んでもらいたいです。

